

平成21年度 第1回 島原市行政評価委員会

日時 平成21年10月21日（水）14時30分～

場所 島原観光ホテル小涌園

1. 委員出席数 委員6名中 6名出席

2. 協議結果事項

①正副委員長選出

委員会発足に伴い、正副委員長を選出。委員長 山口純哉氏、副委員長 大野友道氏に決定。

②今年度の評価対象及び次回（第2回会議）の進め方

- ・今年度は、事務事業評価制度について評価を行う。
- ・事務事業評価の対象がそもそも何なのか、もう少し明確化する必要がある。
- ・評価の説明はあったが、その先の活用について、予算をつける際の活用など、次回、もう少し掘り下げる。
- ・(事務事業評価の対象となっている)市の現場の所管部署の担当者に出席を依頼し、どのような感じで作業をしているのか直接聞いてみる。

3. 委嘱状交付

市長より各委員（6名）へ委嘱状の交付。

4. 市長挨拶（概要）

マニフェストの中で、行政改革と情報公開、厳しくなることが予想される地方財政の運営等について述べているが、今般、交付税の若干の伸びはあったものの、全体としては、いつまでもこのような借金財政が続くはずがないと考えている。

近々に、経済状況を睨みながら、国のみならず、地方も辛抱が必要となることが予想される。このような中であって、本市としては第四次行政改革大綱のもとに、行革に取り組んでいるものの、それだけでよいのか、その延長線上のことも考えなくてはならないのではないかと考えている。敢えて言えば、仕事の仕分けの意味を含めて、仕事の整理、見直しが必要かと考え、「行政評価」を実施することとしたところである。

今回、この役割を、委員の皆様をお願いをし、市としてもまずは内部から切り込んで襟を正し、改めて行革に取り組む姿勢をきちっと考え直す機会とし、その上で市民にもお願いをし、痛みを分かちあうという気持ちで取り組みたい。

市としては、いろいろと課題を抱えている。

- ・有明海に望んでいる本市としては、水質汚染の問題、環境対策に取り組む必要がある。合併浄化槽普及に取り組んでいるが、それだけでよいのか、温泉を抱えているので、合併処理浄化槽だけでは、その処理は困難ではないか。やはり、部分的にでも公共下水道が必要ではないかと思う。
- ・本市にとって一番大事なのは、交通基盤の整備。熊本との航路、有明海の航路の改善、鉄道のみならず道路の整備、特に高規格道路の早期完成は非常に重要である（現状では、長崎市からこちらへ来るとした場合、五島よりも、遠いといわれている）。
- ・ハード面だけでなく、高齢化対策も重要。現在、高齢化率は28%で、10年程度先行しているといわれており、10年後では35%に達し、40年後には40%に達するのではないかと考えている。一直線に人口は減り、高齢者は確実に伸びているという実態の中で、医療・福祉・独居老人対策について、地方では今後益々重要視されてくる。これに対する財源が必要になってくるということ意識しながらやっていくことが重要。
- ・将来に向けての人づくり、後継者育成も大事。以前は中地区3高校（大村、諫早、島原）の国公立大学への進学率は変わらなかったが、現在では、諫早約200名、島原約100名と、層の密度が大きく開いてしまった。島原への転勤族は、ほとんどが単身。半島の中心といいながら、教育環境、生活環境を整えないと、人が残らないし、来ないし、集まらない。
- ・農林水産業が基盤の地域なので、後継者づくりの基盤整備も必要で、行政への期待も大きい。
- ・経常収支比率は比較的高いが、公債費比率、将来への公債負担比率は、県下でも高い方ではない。しかし経常収支比率が高いということは、柔軟な新たな投資の財源が乏しいということ。いかに経常経費を節約するかが大事。
そのためにも、市民の皆様は、情報公開を行って、実情を十分に認識して頂いた上で、行政を進めていくべきと考える。

委員の皆さんには、行政の理想の姿を追求するというスタンスで、忌憚のないご意見とご判断をお願いしたい。

5. 各委員より自己紹介・事務局より自己紹介

6. 正副委員長選出

事務局 委員会設置要綱により、互選によって正副委員長を選出することとなる

いる。いかがすべきか。

委員 事務局の方で推薦していただければいかがと思う。

事務局 それでよければ、そのようにしたいと思うが、皆さんいかがか。

各委員 (異議無しの声)

事務局 それでは、事務局案としては、委員長に山口委員、副委員長を大野委員に
お願いしたいと考えているが、いかがか。

各委員 (異議無しの声)

事務局 それでは、委員長に山口委員、副委員長に大野委員と決定した。よろしく
お願いしたい。

事務局 それでは、ここからの議事進行は、委員長にお願いしたい。

7. 議 事

委員長 (挨拶要旨) 行政評価と一言で言っても、定量的なものから、質的にで
きたかどうかの評価まで様々。今現在、全国の県・市町村では、事業の切
り分け、効率化を競ってやっている。その中で、この委員会も進めていく
こととなるが、とかく行政の委員会というものは、できることの中で何を
していこうという話が多いが、できる・できないを含めて、理想の行政の
姿、行政運営の仕方について、皆さんから忌憚のないご意見を頂きたい。

委員長 議事に入る前に、「公開」について、皆様にお諮りしたい。市長の所信の
中にも、「徹底した情報公開」とあり、また、本委員会設置要綱第一条の設
置目的にかんがみ、会議については、原則「公開」、委員会の議事録または
審議の概要は公表する。ただし、委員名は、忌憚のない意見を頂くために、
匿名とする。原則、このような扱いでよいか。

各委員 (異議無しの声)

委員長 それでは、本委員会の「公開」については、会議は「原則公開」、会議の
議事録、または審議の概要については公表する。

ただし、委員の氏名は匿名とする。ということで進めさせてもらう。

委員長 それでは、議事に入りたい。本日の議題「島原市事務事業評価」につい
て、事務局より説明をお願いしたい。

事務局 今年度は、「事務事業評価」制度そのものについての評価をお願いしたい
と考えており、本日を含め、3回の会議開催を予定している。最終的には、
本委員会から、「提言」という形で市の方へ頂き、その対応を含めて、市議
会・市民へお知らせしたいと考えている。

(以下資料説明)

- 委員長 只今の説明について、何か質問はないか。
- 委員 この委員会のスタンス、立ち位置について。行政のスタッフ機能を持っている会なのか、それとも、第三者としての意見を言うような会なのか。
- また、膨大な事務量があるが、限られた回数、期間の中で、どういう手法で評価をするのか、対象を抽出するのか。評価の対象・範囲はどのように考えているのか。
- 事務局 まず第一点目の本委員会のスタンスとしては、第三者的というか、市民・外部の目という観点から評価を頂きたい。第二点目の評価の対象であるが、今年度については現在、市で行っている「事務事業評価」制度の全般的な評価をお願いしたいと考えており、個々の事務事業についての評価は考えていない。
- ただ、次年度以降については、考え方次第ではあるが、テーマを絞って、例えば、福祉・観光など、個別に見ていこうということも考えられる。考え方、やり方は、いろいろあろうと思うので、この委員会のなかで、ご意見があれば、尊重したいと思う。
- 例えば、今年度の事務事業評価の対象としては、250を超える事業数。これを全部見るのは時間的にも大変なので、ピックアップするのか、分けてやるのかになるかと思う。そこは委員会でご意見を頂ければと思う。
- 委員長 対象については、各地でいろんな工夫がなされているようであり、全部やるところ、一部やるところ等、色々あるようだ。市の現状を聞きながら、委員の皆さんのご意見を頂ければと思う。
- 委員 任期は2年となっているが、10月がスタートで2年ということか。それと、資料によると、2か月に1回の開催予定で、年6回位の開催となるのか。
- 事務局 任期については、その通り。会議については、今年は、10月スタートなので、3回となっているが、次年度以降については、テーマをどう設定するかで変わってくるので、随時皆さんの了解を得ながら、必要に応じてやっていきたい。回数については、特に決めていない。
- 委員長 続いて、島原市の事務事業評価の現状説明をお願いしたい。少々、長丁場となろうかと思うが、私たち委員が、今の市の事務事業評価を勉強するという時間になろうかと思うので、理解を深めて頂きたい。
- 事務局 (資料により説明)
- 委員長 まず、事務事業評価の大枠についての、説明があったところだが、何か質問はないか。

- 委員 内部評価の実施の中で、担当課が評価をしているということだが、さらに、市の全体では、どうだったのかという評価はしているのか。また、内部評価の中でのレベルがあるのか。
- 事務局 担当課の評価を一次評価とし、ヒアリング等をした後に、総合政策課が二次評価という形で評価を行っている。
- 委員長 次に、事務事業評価の具体的な内容説明をお願いしたい。
- 事務局 (資料により説明)
- 委員 枠内予算の説明の中で、「一般財源を各課に配分する」というのは、各課から、こういう事業をやりたいということで申請が上がってきたものを査定して配分するのではなくて、昨年度の実績を見て適当に各課に割り振る、ということか。
- 事務局 枠内予算については、総予算の、約10%（残り90%は枠外予算）しかないが、この一定額を各課に配分するものである。この枠内予算については、各課の政策決定権を尊重して、各課で独自に予算編成ができることとなっている。
- (事務局からの資料説明が続く)
- 委員長 以上で説明が終わったが、質問はないか。
- 委員 事務事業評価の対象として、257事業が上がっているという事であるが、積み上げると、全体としては、予算規模としていくら位なのか、もしくは何割位なのか。
- 事務局 金額の積み上げは、出ていないが、割合としては、予算総額の約9割である。
- 委員 福祉課の所管分のところで、他の地方公共団体では、よく見かける社会福祉協議会への委託事業費、例えば高齢者関係等があまり出てこない。それが出てこないというのは、これは枠内にあるのか、社会福祉協議会への委託・補助が実際無いのか。
- 事務局 先ほど説明したとおり、長期事業実施計画（枠外予算）として、これに出ていないと、予算がつかないので、基本的には、枠外予算ならば、全てここに計上されているはずである。
- ただ、社協への委託金や補助金は、物件費や補助費等という分類になるが、資料 P.12 にあるとおり、これらは、枠内・枠外に分かれているので断言はできないが、枠内予算に計上されている可能性はある。
- 委員 社協の場合、他市では過去からの慣例で、市からの運営補助がよくあるが、そういうものが入っているのかもしれない。この資料 P.12 の確認で

あるが、要するに、枠内予算は、対象とならないと理解してよろしいか。

事務局

そのとおり。

委員

枠内・枠外区分の資料によると、枠内外の区分の定義がいまひとつ曖昧と思われる。枠外が90%と聞いたが、(性質別に見ると)評価の対象としては少ない気がする。

事務局

今回合計を出していないので、集計してみて、全体に占める割合がどの程度なのかを出してみたい。

委員

他の自治体においても、結構対象外にしているもののなかで、本当は見なければならぬものがあった。例えば、国費が入っていたので、対象外としていた、との説明だったが、内容を調べたら、その自治体の持ち出しが相当あって、その使い方がそれでいいのかなと思うもの等があった。

委員長

可能であれば、全体的にどれくらいの割合なのか、事実関係のわかるような資料を次回出してもらいたい。

委員

実際に評価をやってみて、一次評価から二次評価で、どれ位の件数、何%位の見直しがあったのか。

事務局

今年度はまだ二次評価をやっていないので、前年度分で次回お知らせしたい。

委員

事務事業評価の要素とかは、どのような視点からというか、市独自の評価か、または、汎用ソフトのように、一般にあるものか。

事務局

基本的には、独自ではなくて、先行している自治体のものを入手した上で、手を加え、本市独自のものにしたいというのが実情。おそらく、どこの自治体でも同じような状況と思われる。

委員

過去、実際これで役に立っているのか。つまり、この評価の目的は、本来事業が惰性で続けられて来てはいないか、このままでいいのか、または、どうすれば改善されるのかを見出す手掛かりとするための資料となるべきものなのに、他の多くの自治体では、評価票を書いてホッとして、書いておしまいになりがちになっている。このあたりのフォローはどのようになっているのか。

事務局

一番の核心部分といえるところであるが、概要説明の中でも言ったが、この評価をやって、予算とか組織、新しい事務事業に反映させたいというのが理想ではあるが、現実では、ストレートに反映されているのは少ないと思う。

むしろ、予算と同時にやっているのだから、予算を見ながら、どちらかというとその数字に引っ張られながら、やるべき、やらないべきの判断をする

段階で、評価を併せてやるような形になっている。数字に引っ張られ、追従するような形になっているが、本来の趣旨からいうと、自ら評価を行い、事業を判断するという形にもっていきたいとは思っているが。

委員 順番としてはどうなのか。評価をやって予算を組むのか。それとも同時並行で予算を組むのか。

事務局 同時並行でやっている。どちらかという、予算が主体的になっており、先ほど、枠内・枠外の話があったが、本来、全部の事務事業を対象とすべきとは思いますが。

そうすると、評価で、全部やったうえに、更に予算でまた別に資料を作る必要があり、職員の負担がかなり大きくなってしまい、評価票を作ること自体が目的となってしまう。そうならないようにしないといけない。

委員 提言の扱いについて、開催予定は3回となっているが、年度ごとに提言をするのか。

事務局 今回は特に、全体を見ていただいて、今後こうしたらいいとかの意見を頂き、次年度からは、どのようなテーマにするかによるが、個別の事項についてやるのであれば、それについての意見・提言を頂くこととなると思う。

委員 今回はわかったが、次回からは、どのような形でやるのか。この中からいくつかピックアップして評価するのか。

事務局 そのへんは、皆さんの意見をうかがってやりたいと思うが、例えば、このような資料がほしいとかあれば、準備したいと思うし、また、なければ、他の市の先行事例をご紹介しても良いと思う。

委員 今年度は、全体的な視点から意見を出すということであるが、例えば、全体的な視点からならば、個々の事業ごとにではなくて、この事務事業の評価が、予算の積み上げにどう関わっているのか、もっとこのように関わりを持った方が良いとか、そういう流れのものになるのか。

委員長 そのとおり。

委員 そうすると、先ほどの説明によると、予算の積み上げと並行して、作業を進めているとのことだが、評価が予算の積み上げにどう影響しているのか、全く評価のための評価になっているのか、次年度の予算に反映しているのか。

もちろん職員の負担もあるわけだから、評価のための評価であって、次年度の予算に反映されていないということであれば、この評価は何のためにあるのかということになる。流れがもう少し具体的にわかるような、全

体像がよりわかるような資料があれば・・・と思う。

委員長　〇〇委員と〇〇委員の意見は、とても関連していると思われる。〇〇委員の全体像を見ますよといったときには、当然全体像をそのまま説明する場合もあろうし、あるいは、具体的にどのように予算に反映しているのだろうかというときは、〇〇委員のいうように、個別具体的な事例もケーススタディとして出しながら理解を深めていけるし、我々委員側も意見を言いやすくなると思われるので、そのような形がよいのではないかと思う。

また、これ（島原市分のみ）だけ見てもわからないので、事務局から発言があった先行事例といわれるものも紹介していただければと思う。（次回は）そういう進め方になると思う。

委員　予算にどう反映させるか、ということと同時に、やり方をどう見直していくか、この2本が一番重要なところであると思う。先行事例は、なかなか難しいと思う。

事務事業評価自体はとても単純。評価をした結果、このまま続けていいのか、改善すべきか、というだけの話。最近、事業仕分けという言葉をよく耳にするが、意図していることは全く同じ。だから、先行事例を調べても、多分、あまり良い議論にはならないと思う。

どこの市も理想は色々あるけれども、実態を伴っていないのが現実。むしろ、調べるとしたら、改善すべき点は、あるのかどうかを議論すべきだと思う。

委員　参考のために、伺いたいですが、前年度までで、やってきたことは、どういうことなのか。

委員長　この委員会そのものが、今年初めて設置されたものであり、全員初めての経験ということになる。

委員長　ひとつ質問をしたい。このように、具体的に数字を作って評価をしているが、総合政策課と総務課の事業を比べた場合、違うことをやっているの、当然どちらがいいだろうという議論はできないが、これまで、3年やってきているので、時間軸で見たとき、コストが下がったとか、効率的になってきたかは見れると思うが、本当に効率的かどうかは、他の効率的にやっている自治体との比較が必要かと思うが、そういう視点はあるのか。

事務局　それは、いまのところない。

委員長　それでは、基本的に長期の10年の計画のなかで、どれだけ効率性を高めていくかで評価をしているということか。

事務局　そのとおり。

委員 多分そこは、とても難しいと思う。例えば、バスの補助金にしても、全く各市によって事情が違ふ。この比較を他の市でもやろうとしたが、違いを説明する資料を作るのがとても大変で、結局頓挫した例がある。

ただ、参考までに、例えば、ある補助金について、他の市に比べ、1人あたりの額が多すぎないか、少なすぎないかは、睨んでおく必要がある場合もあるとは思う。議会や市民に対して説明する場合に、一般的にはこのくらいという他の市との比較も必要かなど。

委員 評価をやり始めて、3年目ということだが、各事業の評価は、継続してきていると思うが、事務事業評価をすることによる効果を測定する指標はないのか。

事務局 それはない。マスタープランがあって、その下に大きな柱があって、その下に個々の事業がある。個々の事業をやった結果、大きな施策ができるとした場合、個々の事業の評価ではない、大きな施策の評価ができれば、その目的がどれくらい達成できたかが図れるが、まだそこまで至っていない。

委員 やり方は2つあると思う。1つは、目標数値に対し、どこまでできたか。もう1つは、例えば、行政改革大綱等で目標を作って、その何割を予算カットできたか等は、やれるかなと思う。

しかし、なかなかぴったり評価するというのは大変難しい。ずるい人は、最初から絶対達成できるような数値目標を決めておいて、それに適当に合わせていくと、満足する結果になる。要するに、目標数値をどう設定するかによって、ほとんど達成率が自動的に決まることとなる。真剣にやっている人は、数値を高めを設定して、一歩上を行こうとする。ずるい人は、逆に低めの数値を設定して、目標を必ず達成するようにしている。

そう考えると、いくらでも操作できるということになる。むしろ、外部評価（外の目）がなぜ必要かということ、こんなことになっていないかを見ることも理由の1つかと思う。

委員 今回の資料を見ると、一次評価では、A・B だけだが、過去において、C・D・E で廃止したものはあるのか。

事務局 昨年度はC評価が1件あった。

委員 県においても、廃止は2～3%あれば良い方。はっきり言うと、廃止すべき事業などは、最初からやるはずがない。絶対的なレベルではなくて、例えば生涯教育というものは絶対意味がある。しかし、10年前に始めたときは、非常に意味があったけれども、今は、高齢者が増えて、それどこ

ろではないとすると、予算の範囲内で、同じ額を生涯学習にずっと使っていくのがいいのか、それとももっと重要な課題が出てきて、こっちを削ってそちらへ持ってきた例など。

もともと意味のない事業は、ゼロのはず。担当課から、これを廃止しますというのは、上がってくるわけがない。主としては、環境が10年前と変わってきたので、こちらの優先度を落とし、結果的に廃止や縮小にもっていくというような判断をしないといけないので、このあたりは政策判断になってくる。

もちろん、やったけども効果がないので、やめようというものもゼロではない。現実には少ないということである。

委員長 他に意見はないか。

なければ、このへんで議事を終わろうと思うが、先ほど出た意見をまとめると、次回は、①対象がそもそも何なのか、もう少し明確化する必要がある。②評価の説明はあったが、その先の活用について、予算をつける際の活用など、質的なことを言えば、本当は、各課でこれに対してどのような対応をとっているのかがあればいいと思うが、これは簡単には把握できないと思うので、対策と活用について、次回、事務局にもう少し掘り下げて説明いただき、島原の事務事業評価はどうしたらいいのかということで進めたいと思う。

委員 次回でなくとも良いが、1つでもよいので、市の現場の所管部署の人に来てもらって、どんな感じで作業をしているのか直接聞いてみたいと思うが。

委員長 事務局の方で、調整していただき、所管部署の人をお連れ願いたいと思います。

委員長 議事はこれで終わりたいと思うが、最後に、「その他」とあるが、事務局からなにかあるか。

事務局 次回、会議については、11～12月で調整して、改めて開催の連絡を差し上げたいと思う。

委員長 本日の委員会はこれで終了します。ありがとうございました。

以上 : 閉会